

Changes in maternal consciousness after childbirth and related paternal and family support

宮中, 文子

<https://doi.org/10.15017/458567>

出版情報 : 九州芸術工科大学, 2003, 博士 (芸術工学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :

第1章 はじめに

第1節 出産後の子育てと母親の現状

乳幼児の健やかな発達にとって、愛情を基本とした親の関わりが重要であることはいままでもない。近年、母親の育児不安や育児負担感、母親の乳幼児への虐待など、子育てにおけるさまざまな問題が顕在化し、家庭や地域の育児機能の脆弱化が指摘されてきた（萩須,1987；岩上,1994）。出産後に続く子育ては、生む性としての女性を母親へと成長させていく主要な発達課題である。だが、子育てはその過程にある女性にとって時として心理的危機（crisis）に陥し入れるストレスフルな出来事でもある。この段階にあつて、育児不安や負担感から心理的危機に陥った母親に対して、家族および地域社会からの適切な支援がないとき、母親と乳幼児との関係が歪んだものとなり、子どもへの虐待（child abuse）に陥る場合もあると思われる。子ども虐待のうち61%が実母によるもので、3歳までの乳幼児期に発生したものは19.8%を占めている（厚生労働省,2002）。こうした現状からみると、出産とその後に続く子育ての段階で、必ずしもすべての女性が健やかな母親への発達を遂げているとはいえないものと推測される。

第2節 本研究課題の設定理由

こうした出産後の母親と家族を取り巻く状況の変化が生じる背景については、これまで子育てにおける親の役割や責任を女性にのみ過剰に強調する傾向を社会が生み出してきた。今日では、子育てにおける父親や家族の役割が重要視されるようになってきている（Lamb,1976；Pedersen,1980；牧野,1982；高橋ら,1990/1992；平山ら,1989/1990/1991；日暮ら,1992/1993/1994）。とはいえ、母親の心理社会的な発達の視点からの研究アプローチは極めて少ない現状にある（大日向,1988；柏木,1993）。出産後に女性が母親へと発達する過程においてどのような意識や行動の変化がみられるのか、また、その発達が健やかでないサインを発見することで、「乳幼児への虐待」が生じる前に予防的に支援することができないだろうか？。こうしたことを検討するため、出産後の女性について、その心理社会的な側面から「母親への発達」を経時的に解析することとした。